

平成28年3月19日

『平成28年度 指導部の目標とビーチバレーボールの重点指導項目』

JVA国内事業本部 審判規則委員会 指導部

1 目 標

- (1) 審判員は、公平な立場で試合を運営し、ルールを正確に適用して、バレーボールの魅力をも十分に引き出せるようなゲームマネジメントを行う。
- (2) 審判員は、メンタル面の強化を図り試合全体をコントロールできるように他の役員と協力してスムーズな試合運営を行う。
- (3) 審判員は、選手・チームスタッフから信頼されるように審判技術の向上を目指し、日々の審判技術の研鑽に努める。

2 重点指導項目

【主 審】

I 権限

主審は、試合開始から終了までを主宰し、その試合の審判団と両チームメンバーに対して最高の権限を持つ。

II 不法な行為について (規則20)

- (1) 選手・チームスタッフの試合中の不法行為について毅然とした態度でルールを適用する。
- (2) 上記に関わる不法行為について理解する。

III 判定について

- (1) ネット際の判定について理解する。
- (2) ハンドリング基準の確立
 - ① 指を用いたオーバーハンドのセットアップ
 - ② チームの第1回目の接触プレー
 - ③ ハードドリブン (強打) ではないオーバーハンドレシーブ
- (3) 各プロトコールについて理解する。(ボールマーク・プロテスト・インジュリー)

IV 試合の遅延

- (1) 選手のどの行為が遅延の対処となるかを理解し適用する。
 - ① コートスイッチのとき
 - ② 選手がラインを直すとき
 - ③ セット開始前、TO・TTO終了時
 - ④ 選手がサングラスや身体などについた砂を落とすとき

【副 審】

I ネットへの接触・ネット近くの選手の反則

- (1) タッチネットについての理解をする。
- (2) 上記に関わるプレーに対する妨害について理解する。

II 判定について

- (1) タッチネットの判定
- (2) アンテナ付近の判定
- (3) 許容空間外側のボール通過の判定

III 試合中断の手続きについて

- (1) コートスイッチ
コートスイッチの手順及び取扱いを十分理解し、スムーズに行えるようにする。
- (2) タイムアウト、テクニカルタイムアウト
 - ① 両チームには、1セットにつき1回のタイムアウトが認められる。時間は30秒間で、短縮はできない。
 - タイムアウトの開始は、ハンドシグナルが明確に示され、両チームともにそのシグナルを確認した時からであり、最後の競技者がコートを離れた時からではない。
 - チームメンバーはベンチに戻らなければならない。
 - 通常の場合で、タイムアウトやコートスイッチの手順は、以下のとおり。
 - ・コートを離れるための15秒
 - ・ベンチに下がってからの実質上の30秒
 - ・副審は、45秒で吹笛して、コートへ戻るように指示する。
 - ・コートへ戻り、次のプレーへの準備のための15秒
 - ・経過時間の総計は、1分間を超えてはならない。
 - ・レーカーが入る場合にはその動きもコントロールする。
 - ② タイムアウトの要求は、キャプテンのみ要求できる。
 - ③ T T Oは、コートスイッチの時に合図（ハンドシグナルで示す）され、それからタイムアウトと同じ手順で行われる。（テクニカルタイムアウトと口頭で告げられる）

【記録員】

規則24.2 責務を十分理解し、自身の責務を遂行する。

- (1) サービス順の確認、得点の確認をしながら、正確に記録をつける。疑わしいときは試合を止め、アシスタントスコアラー等に確認をしてミスの無いようにする。
- (2) コートスイッチとそれぞれのセット終了を主審と副審に知らせる。
- (3) すべての罰則と不当な要求を記録する。
- (4) 最終結果 (RESULTS) の集計を素早く行う。（例：セット毎にメモ用紙に集計していく）
- (5) 記載ミスをした場合は鉛筆で○で囲んで表示をする（2重線で消さないこと）。最終確認のときに主審が修正する。

【アシスタントスコアラール】

規則25.2 責務を十分理解し、自身の責務を遂行する。
記録員と声を掛け合って、サーバーの番号や得点を確認し合う。

- (1) それぞれのチームのサービス順を選手のサーブに合わせて、1または2の数字を示す。(ナンバーパドルを示す) 誤りがあれば、ブザーを使用して直ちに主審と副審に通知する。
- (2) 記録席上のスコアボードを使用して、得点掲示をする。
- (3) スコアボードの得点が正しいか確認する。
- (4) テクニカルタイムアウトの開始と終了を通告する。
1分をオーバーしないようにする。
- (5) 予備の公式記録用紙を準備し、必要があれば記録員に渡す。

【ラインジャッジ】

ラインジャッジが2人の場合は、主審と副審の右側コーナーから、1～2m離れた対角線の位置に立つ。それぞれ自分側のエンドラインとサイドラインの両方をコントロールする。ラインジャッジが4人の場合は、自分が担当するラインの想像延長線上で、コートそれぞれのコーナーから1～3m離れてフリーゾーン内に立つ。

- (1) 担当するラインの判定を確実に行う。ボールコンタクトは、確実に見えた場合限りフラッグシグナルを示す。
- (2) アンテナに関わる判定方法やボールを取り戻す場合の判定方法を確認し試合に臨む
- (3) 選手がアンテナに触れた場合、フラッグを振りその選手を指す。
- (4) ラリー終了時に担当ラインのゆがみや砂の凹凸を監視し必要に応じて砂をならす。
- (5) 選手の要求により必要に応じて所持しているタオルを選手に渡す。(サングラスを拭くため)